

『論文を正しく読み書くためのやさしい統計学 改訂第2版』 正誤表4

このたびは上記書籍をご購入いただきまして誠に有難うございます。

本書(2010年9月30日印刷分, 2011年3月10日印刷分, 2012年7月30日印刷分, 2014年1月10日印刷分, 2014年12月10日印刷分)に, 下記のような誤りがございました。

ここに訂正させていただきますとともに, 謹んでお詫び申し上げます。

※2013年6月10日にHPに掲載しました「正誤表2」には一部誤りがございました。

「正誤表2」において誤りのあった部分の訂正はこちらにも記載しております。

なお, 「正誤表2」は正しいものにさしかえいたしました。

謹んでお詫び申し上げます。

箇所	誤	正
28 ページ 下から 3 行 目～	<p>・・・あると高血糖になるリスクが <u>2.62</u> 倍高くなり, その 95%信頼区間の下限が <u>1.58</u> で上限が <u>4.34</u> である. すなわち, 95%の確からしさで, 脂肪肝があると, ないよりも高血糖のリスクが少なく見積もっても <u>1.58</u> 倍高くなるということになる.</p>	<p>・・・あると高血糖になるリスクが <u>3.51</u> 倍高くなり, その 95%信頼区間の下限が <u>2.16</u> で上限が <u>5.70</u> である. すなわち, 95%の確からしさで, 脂肪肝があると, ないよりも高血糖のリスクが少なく見積もっても <u>2.16</u> 倍高くなるということになる.</p> <p>※29 ページの表 4 の数値変更に伴い, 本文の数値も変更となります.</p>
29 ページ 表 4 Men and Women の OR(95%CI)	<p>(2010年9月30日印刷分, 2011年3月10日印刷分, 2012年7月30日印刷分での記載) <u>2.62</u> (<u>1.58</u>—<u>4.34</u>)</p> <p>(2014年1月10日印刷分, 2014年12月10日印刷分での記載) <u>3.51</u> (<u>2.11</u>—<u>5.84</u>)</p>	<p><u>3.51</u> (<u>2.16</u>—<u>5.70</u>)</p> <p>※表 4 の Men, Women は「検定統計量を用いた方法」により計算した値ですので, Men and Women についても同様に「検定統計量を用いた方法」で計算します. ※2014年1月10日印刷分, 2014年12月10日印刷分では, Men and Women における 95% CI を, 本来「検定統計量を用いた方法」で計算すべきところを「Wolf の方法」で計算した値を掲載していました.</p>
160 ページ 下から 3 行 目	$r = S_{xy} \sqrt{S_x \times S_y}$	$r = S_{xy} / \sqrt{S_x \times S_y}$ <p>※除算 (割り算) を表すスラッシュが入ります.</p>

以上